

## 宮崎汎会員が見た世界の旅第3部歴史編第3話

ドミネ・クォ・ヴァディス（ラテン語＝主よいずこへ行き給う） ローマ

古代ローマ帝国は、2千年前からコンクリートの頑丈な城壁に守られていた。北京やウィーンに見られるように現代社会の利便性を優先し城壁を全て取り壊してしまったところもあるが、ローマはそのまま残し現代の日常生活を古代遺跡に適合させている。ローマ市内へ入るには今でも城門をくぐらねばならない。「すべての道はローマに通ず」の例えどおり古代ローマは軍事戦略上、道路工法に工夫を凝らすなど道路建設を非常に重視した。

イタリアを縦断する有名なアッピウス・クラディウス・カエクスが作ったアッピア街道は、ローマから延々長靴のかかと部分にあたる布林ディシまで560kmもある。

アッピア街道の起点は古代ローマの政治経済の中心地であるフォロロマーノ（公共広場）である。また街道には、マイルストーン（大理石の石柱）が1マイルごとに設置されていた。アッピア街道からローマ市内に入るには、古代も今もサン・セバスティアノー門をくぐることになる。



サン・セバスティアノー門



大理石のマイルストーン



アッピア街道の2千年前の石畳

市内から城壁の門をくぐりアッピア街道に出ると、当時の石畳の真っすぐな道路が続く。1kmほど歩くと左側に小さな教会が建っている。すでに9世紀に創建されたというが、今建っているのは1637年に建立されたものである。これがドミネ・クォ・ヴァティス教会である。正式にはサンタ・マリア・イン・パルミス教会であるが、ドミネ・クォ・ヴァディスと呼び慣らわされ教会の名前になっている。

この教会がなぜここに建てられたかの逸話は古代に遡る。ローマ帝国の暴君ネロ帝の頃、キリスト教はまだ禁じられていた。ペテロはローマで禁じられているキリスト教の布教活動をしていたが、身に迫る危険を感じてローマを脱出した。そしてアッピア街道を歩んでいたとき、磔で亡くなったはずのイエスキリストと出会い、ペテロはイエスキリストに



ドミネ・クォ・ヴァティス教会

「ドミネ・クォ・ヴァティス？＝主よ、いずこへ行き給う？」と尋ねた。キリストは「あなたが見

捨てた人々のために私はもう一度磔の刑になるためにローマへいくのだ」と答えた。

ペテロがイエスキリストに出会い、二人が会話をした場所がまさにここである。そこに教会を建てたのである。ローマ市内の教会を見慣れた目にはこの教会は狭く小さく感じ、一方内陣も非常に簡素である



教会の床に鉄格子がはまっている



イエス・キリストの足型

この教会で大変面白いと感じたことは、教会の床の白い大理石に人の足型が彫られ、それは鉄格子に覆われている。聞くとこの足型はイエスキリストの足型だという。オリジナルはこの先にあるサン・セバスティアーノのカタコンベ（ローマ人の墓地）の聖堂にあるが、イエスキリストの足型はこの教会を訪れる人々の関心の的になっている。罰当たりだが見た瞬間キリストさまはひどい扁平足だなと思ってしまったのである。1951年ハリウッドで「クオ・ヴァディス」という題名で映画化されている。

ところでペテロはイエスキリストの言葉を聞いて、自分のなすべきことに気づかされ、来た道をローマへとって返し、そして逮捕され磔の刑に処せられた。その時ペテロは、主イエスキリストと同じ磔は恐れ多い、私は十字架に逆さまになって磔になるといって逆さ磔になったという。



ヴァチカンサン・ピエトロ大聖堂の巨大な天蓋、この下にペテロは眠る

ペテロが磔の刑に処されたのは現在のカトリックの総本山であるヴァチカンのサンピエトロ大聖堂広場のオベリスクの建っている箇所である。その後キリスト教を公認したコンスタンティヌス帝はペテロの殉教した場所に聖堂を建てさせ、城外のカタコンベにあったペテロの遺体をサンピエトロ大聖堂の地下に埋葬した。

大聖堂に入ると正面にベルニーニ作の青銅製の巨大なねじれた4本の柱に支えられたブロンズの天蓋が目に入り圧倒されるが、この真下にペテロ



ペテロがつながれていた鎖

は葬られている。

またペテロがつながれた鎖がローマのサン・ピエトロ・イン・ヴィンコリ教会に収められている。

注) ヴィンコリ=伊語で鎖